

茨木市立東奈良小学校 全国学力・学習状況調査分析結果

令和3年10月作成

【今年度の結果と取組みについて】

〇●国語●〇

(領域ごと)

- ①言葉の特徴や使い方に関する事項 良好な結果であった
- ②A話すこと・聞くこと 良好な結果であった
- ③B書くこと 概ね良好な結果であった
- ④C読むこと 良好な結果であった

(問題形式)

- ①選択式 概ね良好な結果であった
- ②短答式 大変良好な結果であった
- ③記述式 良好な結果であった

(無解答率)

概ね良好な結果であった

(その他)

- ・最も正答率の高い設問—3三(1)エ漢字の記述「げんいん」
2二比較の対象の「～は～より」の使い方
- ・最も正答率の低い設問—2三目的に応じ、文章と図表とを結び付けて必要な情報を見つける
3三(2)オ文の中の修飾と被修飾との関係をとらえることができる
- ・最も無回答の高い設問—3二目的や意図に応じて、理由を明確にしながら、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する。
- ・最も無回答率の低い設問—1一…目的に応じ、話の内容が明確になるようにスピーチの構成を考える
1二…資料を用いた目的を理解する。
1三…目的や意図に応じ、資料を使って話す。
2一…文章全体の構成をとらえ、内容の中心となる事柄を把握する。
2二…思考に関わる語句の使い方を理解し、話や文章の中で使う。
2三…目的に応じ、文章と図表とを結び付けて必要な情報を見つける。
3一…自分の主張が明確に伝わるように、文章全体の構成や展開を考える。

分析

- ・文章と図表とを結び付けて必要な情報を見つけることができないと正答とはならない。何をヒントに、どのような仕組みの面ファスナーを作ったのかと問われているにも関わらず、ヒント・面ファスナーの仕組みについては、単体ではわかっているが関連付けて書くことができていない事例が目立った。
 - ・中心となる語や文を見つけて要約する必要がある問いでは、条件が示されその条件に合わせて書くことが求められているが、読み取れる情報が多く、必要な情報を選択し結びつけて字数に合わせて要約することが難しいようであった。
 - ・理由を明確にしながら、自分の考えが伝わるように書き表す必要があるが、「意見を明確にする」「反対する理由も書けている」「引用の言葉や文章を使う」の一つ一つは理解できていてもすべてを網羅して書くことが難しい。
 - ・文中での修飾・被修飾の関係を正しくとらえられない児童が目立つ。
- 以上のことから、本校の子どもたちは、大まかな意味のとらえ方はできるが、文章の構成を考えながら内容の正確な意味を理解することが難しく、そのため文意に即した文章を書くことに課題があると思われる。従って丁寧に読み解いていくことが必要で、また、文の構成についても復習する必要があると思われる。

〇●算数●〇

(領域ごと)

- | | |
|-----------|-------------|
| ① A数と計算 | 良好な結果であった |
| ② B図形 | 大変良好な結果であった |
| ③ C測定 | 概ね良好な結果であった |
| ④ C変化と関係 | 良好な結果であった |
| ⑤ Dデータの活用 | 大変良好な結果であった |

(問題形式)

- | | |
|-------|-------------|
| ① 選択式 | 良好な結果であった |
| ② 短答式 | 大変良好な結果であった |
| ③ 記述式 | 大変良好な結果であった |

(無解答率)

概ね良好な結果であった

(その他)

- ・最も正答率の高い設問—3(2)…棒グラフから、項目間の関係を読み取ることができる。
- ・最も正答率の低い設問—1(3)…速さを求める除法の式と商の意味を理解している。
- ・最も無回答率の高い設問—4(3)…小数を用いた倍についての説明を解釈し、他の数値の場合に適用して、基準量を1とした時に比較量が示された小数に当たる理由を記述できる。
- ・最も無回答率の低い設問—1(3)・2(2)・2(3)・3(4)・3(5)・4(2)・4(3)以外無回答なし

分析

- ・全般的に正答率が高い。無回答も少ない。
 - ・基本的な計算はできる。
 - ・問題の情報量が少ないものは、整理がしやすいのか、正答率が高い。
 - ・正しい式と答えを選ぶ選択式の回答にもかかわらず、除法の式と商の意味が理解できていないので、正答を選ぶことができない。
 - ・小数を用いた倍についての説明の手本があるが、それを理解し、他の数値の場合に適用して、基準量を1とした時に比較量が示された小数に当たる理由を記述できない。
 - ・情報がたくさんある時、適切に必要な情報を取捨選択して正答を引き出すことが難しい。
 - ・問題文が長いものは、情報の整理が難しいのか、正答率が低い傾向がある。
- 以上のことから、基本的な計算はできるが、多くの情報がある場合、その中から必要な情報を取捨選択して立式したり、公式を選択したりすることが難しい。また、問題文が長くなると、問題文の意図を理解して的確に回答を導き出すことが難しい。

〇●経年比較●〇

全体的な傾向についての分析

全体的に基本的な学習は定着している。無回答も少なく、学習してきたものを活用して、問題に取り組もうとする態度が見られる。

しかし、長文を読解して、内容を理解し考えを整理して、解答を導くことが難しいようである。
全体的な学習成績は、例年になく優れている。
過去の学習の積み上げができていると感じられる。

学力高位層と学力低位層、エンパワー層 についての分析

学力高位層と学力低位層の差が大きく、学力低位層がエンパワー層に大きく移行し、エンパワー層の中から、学力高位層に移行していて、全体的によくできている。

例年になく、学力低位層が低い割合になっている。

〇●取組み●〇

学力向上に関する取組み

- ・校内学力保障部会で「自分の思いを表現し、伝え合う力を高める国語科学習～確かな言語力を育むための授業づくり～」をテーマに校内研究を昨年度から取り組んでいる。昨年度・今年度は読解力向上の取り組みを行い、校内研究授業を行っている。（昨年度は、コロナ感染拡大予防のため、授業公開は最小限にし、年度末に取り組み報告会と交流を行った。）
- ・NIE の取り組みの継続。
- ・リーディングスキル事業の取り組みを昨年度から行っている。全学年全教科で、言葉を意識した授業の構成に取り組んでいる。
- ・リーディングスキル事業の取り組みの1つとして、1・2年生でMIMに取り組んでいる。
- ・リーディングスキル事業の取り組みの1つとして、5・6年でリーディングスキルテストを行う。結果をもとに、分析し学習指導に生かしている。
- ・毎週水曜日に読書の取組み。
- ・視写の取組み。
- ・一昨年度まで、全学年で国語科学習の研究に取り組み、「自分の思いを言葉や文章で表現する～書く」をテーマに研究授業や研修を行ってきた。
- ・作文学習から、全学年学期に1度、給食時間に全校放送でクラスの代表が発表する機会を設けている。
- ・粘り強く課題に取り組む姿勢を育成し、無回答をなくす声かけを行っている。